

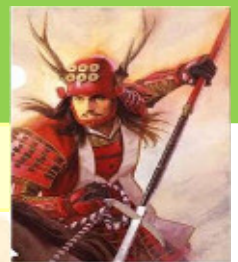
愛知県 第2回高齢社会懇談会

高齢者の社会参加が拓く、持続可能な地域づくり



2019/7/31 愛知県議会議事堂 1階
 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム
 藤原佳典

歴史に学ぶ～地域包括ケアシステムは戦略



内堀



外堀

今、なぜ多世代アプローチなのか？

「我が事・丸ごと」 共生社会の肝は

➤ 「丸ごと」とは、
「三方よし」 「論語と算盤」 (澁澤栄一)



➤ 「我が事」とは、
「子供叱るな来た道だもの、
年寄り笑うな行く道だもの」

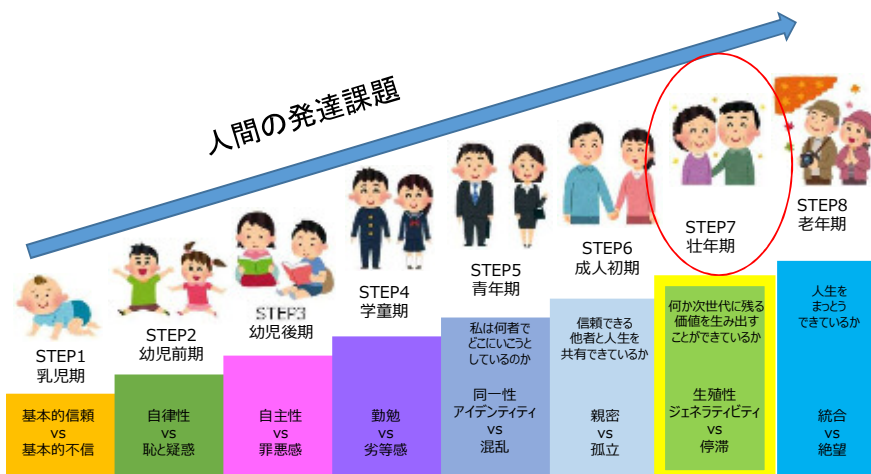


(澁澤栄一)

高齢者の視点・次世代継承への意識・行動

Generativity理論

「次世代の価値を生み出す行為に積極的に関わること」



Erikson心理社会的段階目録検査

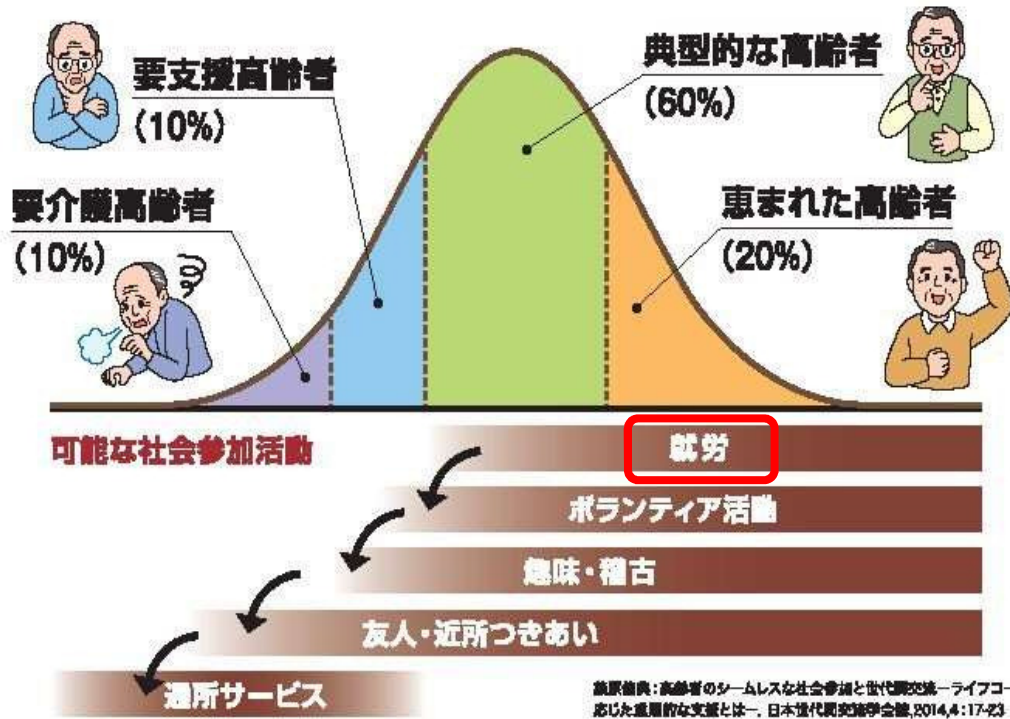


▲ E.H.エリクソン (1963)



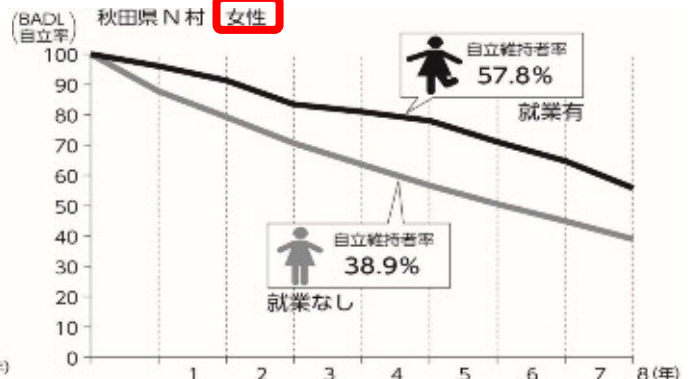
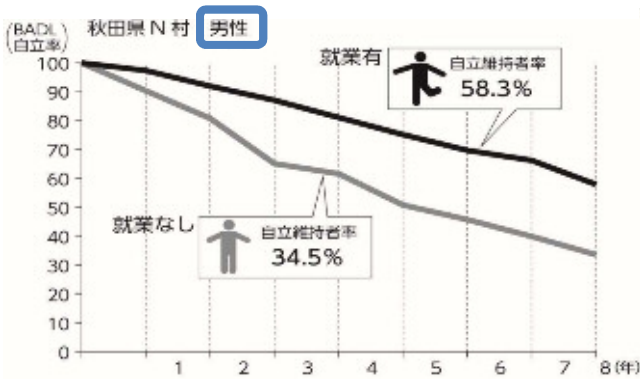
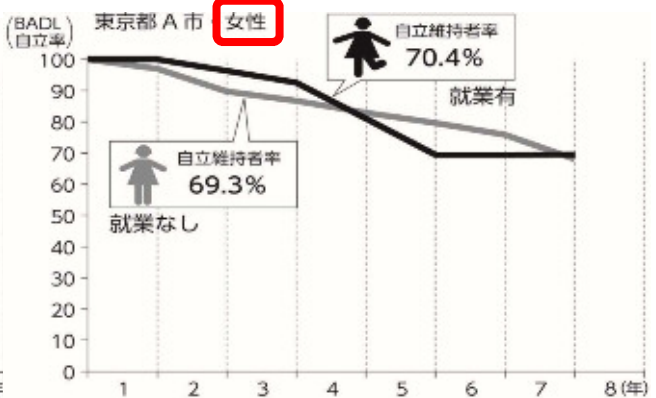
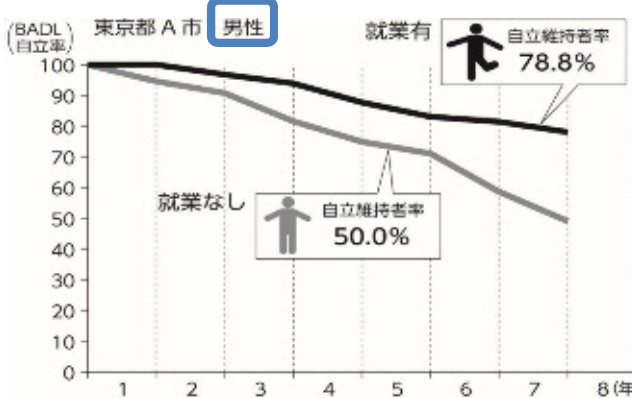
➡ 英知、思い、技術、経験、文化、環境・・・何かを伝える

高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み



5

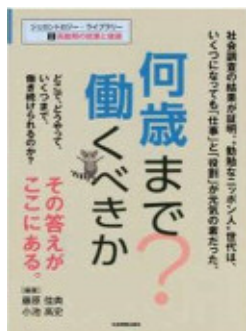
就業が生活機能の維持に及ぼす意義



Fujiwara, Y. et. al.: Geriatr Gerontol Int 2016; 16: 126-134を改編 (株) 社会保険出版社「何歳まで働くべきか」藤原佳典・小池高史 (編者)

6

2014年～高齢者就労支援のあり方
研究会(研究者・実務者)を計25回開催



社会保険出版社



ミネルヴァ書房

USPS&研究 基礎研究(A)
「大都市求職高齢者の実態解明およびシームレスな社会参加支援に向けた研究」(研究代表者:藤原伸典)

第2回 公開シンポジウム

介護福祉領域における高齢者就労の展望

平成31年3月16日(土)
13:30~17:30
桜美林大学 四谷キャンパス(千駄ヶ谷)

入場無料
事前申し込み要
締切3/8

プログラム

開会挨拶
講師: 佐藤 氏 (東京初級保健長寿医療センター-研究員)

第1部 トピック発表 高齢者就労を盛り込む環境
座長: 青 野 氏 (高知医科大学)
柳家 隆二 氏 (日本大学)
小池 真史 氏 (九州歯科大学)
松永 博子 氏 (東京聖隷済生会医療センター-研究員)
高橋 知也 氏 (東京聖隷済生会医療センター-研究員)

第2部 特別講演
テーマ: 将来の介護福祉と高齢者就労
座長: 長田 久雄 氏 (桜美林大学)
講演: 前田 翔三 氏 (経済産業省経済産業政策局長兼産業構造課)

第3部 シンポジウム
テーマ: 持続可能な社会へ向けた高齢者の介護福祉就労の展望
座長: 藤原 伸典 氏 (東京初級保健長寿医療センター-研究員)
1. 高齢者が活躍できる介護事業所の好事例報告
相良 友哉 氏 (東京聖隷済生会医療センター-研究員)
2. 研究者・実務者によるディスカッション
渡辺 修一郎 氏 (桜美林大学)
堀本 成典 氏 (筑波大学)
石橋 智司 氏 (ダイヤ福祉社会実務院)
大川 直人 氏 (社会福祉法人 永上長寿園)
都沼 英一 氏 (社会福祉法人 三幸福祉会 社の総しハウス文京関口)
中井 祐輔 氏 (株式会社みづつあ)

<お問い合わせ先>
東京聖隷済生会医療センター-研究員
社会参加と地域保健研究チーム (担当: 杉良, 真穂)
TEL: 03-9364-3241(内線4257) E-mail: essence@img.or.jp

<お申し込みフォーム>
<https://form087.biz/4767d38c/>
※ スマートフォンの場合は、QRコードで参加登録をお願いいたします。

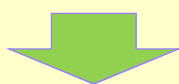
【主催】 ESSENCE研究会-東京初級保健長寿医療センター-研究員 社会参加と地域保健研究チーム 【後援】 桜美林大学

7

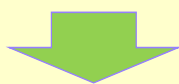
高齢者就労のめざす、三方よし



高齢者に良し
+ 雇用者・現職に良し
+ 地域社会に良し



直接感謝される働き方

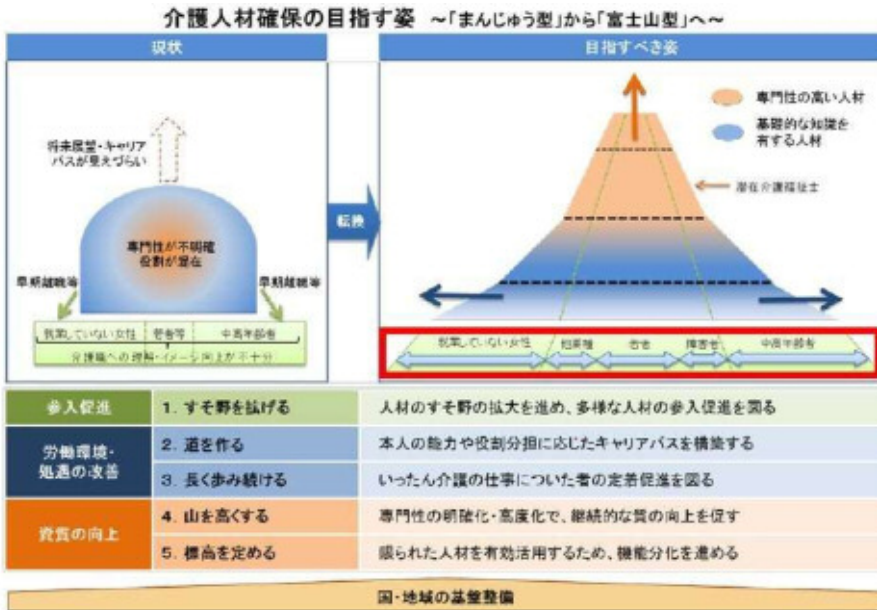


技の継承、ワークシェア、介護・育児支援・・・

ESSENCE研究会ステートメント(2019/3/16)

8

2025年に向けた介護人材の構造転換と「新たな担い手」



介護現場の解決策 見本

切り札は、介護助手

監修：藤原博典
監修：野村浩一
監修：野村浩一

人材不足の介護現場に、とてつもない役割が求められています！
それは、実はシニアに託されています。介護助手として、
比較的簡単な業務を担ってもらう働き方が広がっています。
世代別のシニアの活躍、数多く介護現場へ求められ、
現場で活躍する方々です。
三重県では、地域包括ケア推進事業を契機として、
2019年から「介護助手職」の導入を推進してきました。
7年を過ぎ、すでに介護現場に定着して
現場の業務負担を大きく減少させています。
シニアを活躍させるメリット、決定的にシニアに託されています。

成功のカギは、次の3つ

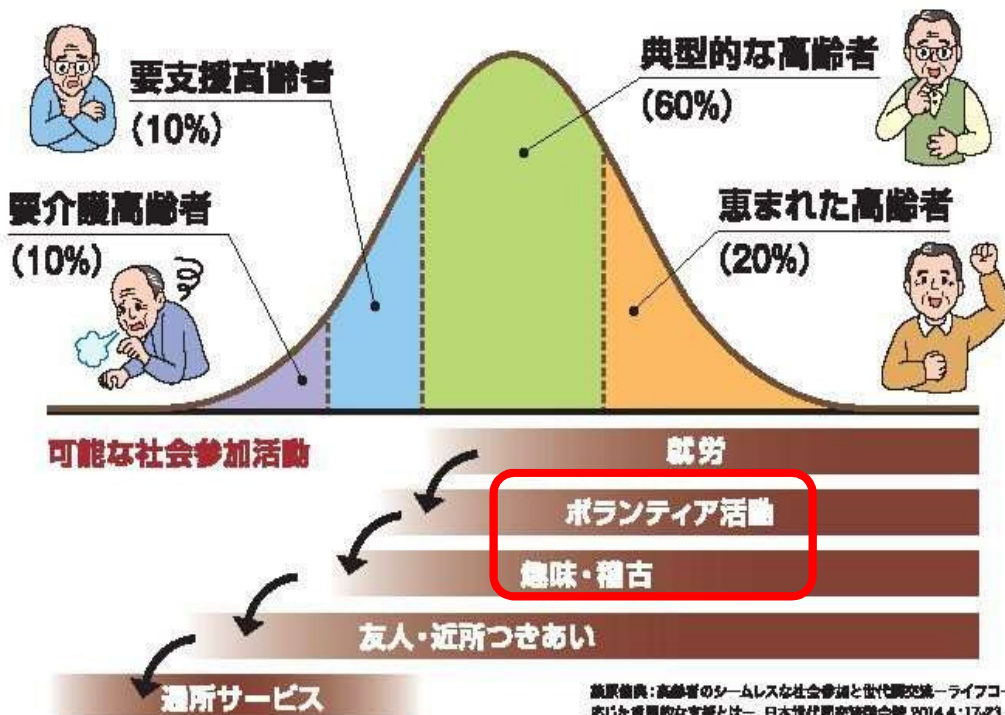
1. 目的とメリットをきちんと伝え、職目の理解と合意を得る。
2. 十分な研修をとおることから、初めから定着を促す。
3. 1つの仕事を丸ごと任せず、上子に切り分ける。

出典)社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会「2025年に向けた介護人材確保～量と質の好循環の確立に向けて～」(平成27年2月25日)

厚労省 介護現場革新会議 パイロット事業

～当チームで三重県における「介護助手」調査を委託 (2019/7～) 9

高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み

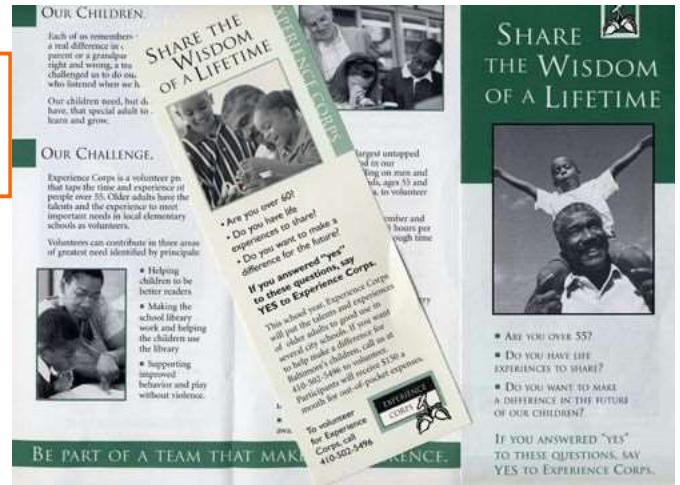


米国の高齢者・ソーシャルキャピタル戦略

Use it, or lose it
「頭、体、心」を使うか、さびるか？



学び、役割、仲間



プロジェクト「Experience Corps®」

◆ 公立小学校でのシニアボランティアによる
世代間交流モデル研究 (Fried et al. *J Urban Health* 2004)

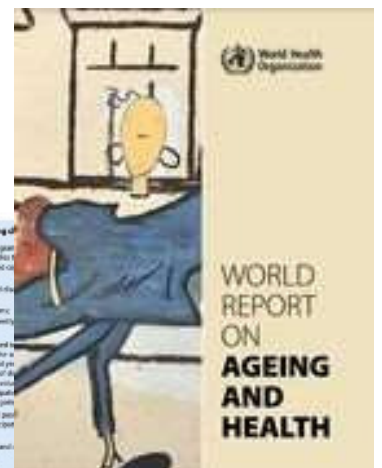
11

認知症予防発！世代間交流ボランティア シニア読み聞かせボランティア「りぷりんと」

2004~モデル版

- 東京都中央区（都心部）27名→40名
- 川崎市多摩区（住宅地）22名→57名
- 滋賀県長浜市（地方小都市）21名→100名

WHO ワールドレポートにて
優良事例として紹介



Box 9.15. Older people helping out
Experience Corps is a volunteer program that taps the time and experience of people over 55. Older adults have the talents and the experience to meet important needs in local elementary schools as volunteers.
Volunteers can contribute in three areas of greatest need identified by principals:
• Helping children to be better readers.
• Making the school library work and helping the children use the library.
• Supporting improved behavior and play without violence.
... (text continues) ...
... (text continues) ...
... (text continues) ...

2006~普及版

杉並区、横浜市青葉区
豊島区、文京区、大田区

2015~

北区、板橋区、府中市
練馬区、千代田区

2017~

狛江市
北秋田市

2018~

新宿区
立川市



自治体の介護予防・認知症予防事業として飛躍的に展開

➤主人公が高齢者多い

➤メッセージ性

➤多種多様、無尽蔵

➤借りれば無料

➤近くの図書館で

13

生涯学習型 認知介入プログラム

第1回 今読まれている絵本について



第2-3回 忘れられない絵本, 自分を知る

・絵本の記憶の掘り起こし, 伝えるという技術について



第4回 読み聞かせに必要な体づくり

・柔軟体操から呼吸法、発声と滑舌 読み聞かせの技術



第5-6回 読み聞かせの練習

・読解と表現, 文章理解と感情移入

記憶トレーニング



第7-8回 読み聞かせ発表会 読み聞かせ実践

・個別発表会, 自己採点・講評

第9回以降 グループ発表会の準備, 実演

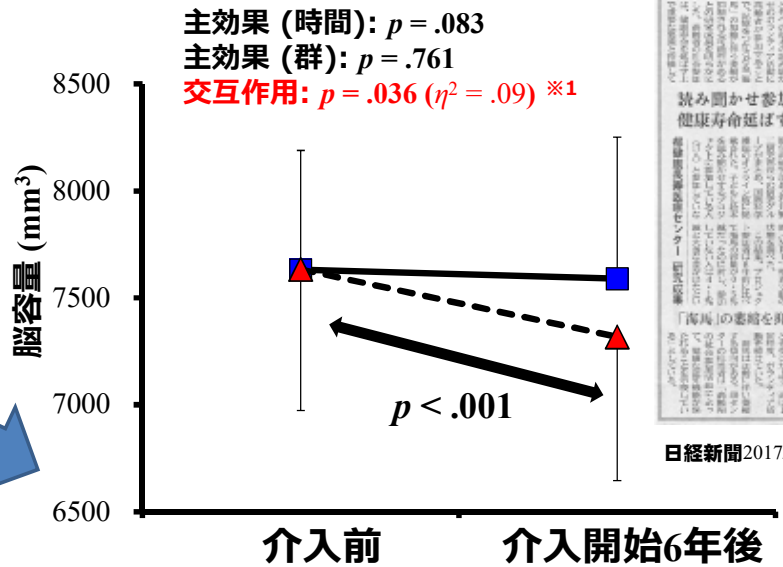


■ ボランティア群 (介入群) : 17名

▲ 対照群 (健診参加のみ) : 42名



6年間ボランティア継続



日経新聞2017/9/20

※1 性、年齢、教育年数、現病歴、抑うつ得点、頭蓋内容量、MMSE得点、ApoE遺伝子型、追跡期間を調整

Sakurai et al. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2017

文化活動だけど体力も維持！ — 7年間の長期効果 —



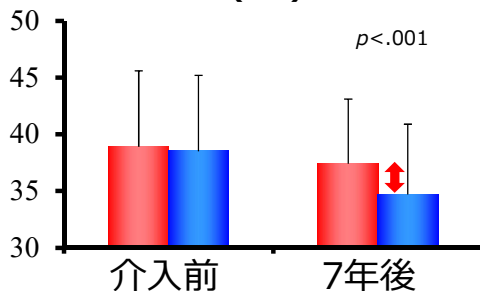
介入群(ボランティア)62名、対照群100名を7年間追跡

■ 介入群 ■ 対照群

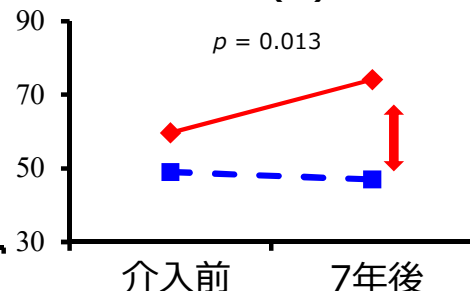
— 介入群 対照群

※交絡因子を調整

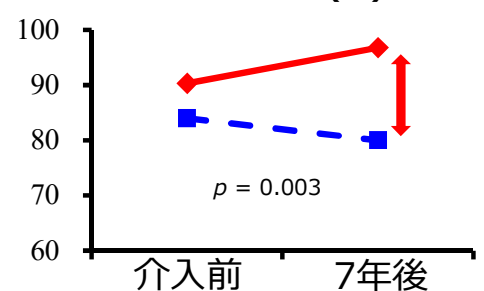
前のめりバランス(cm)



近隣子供との交流者(%)



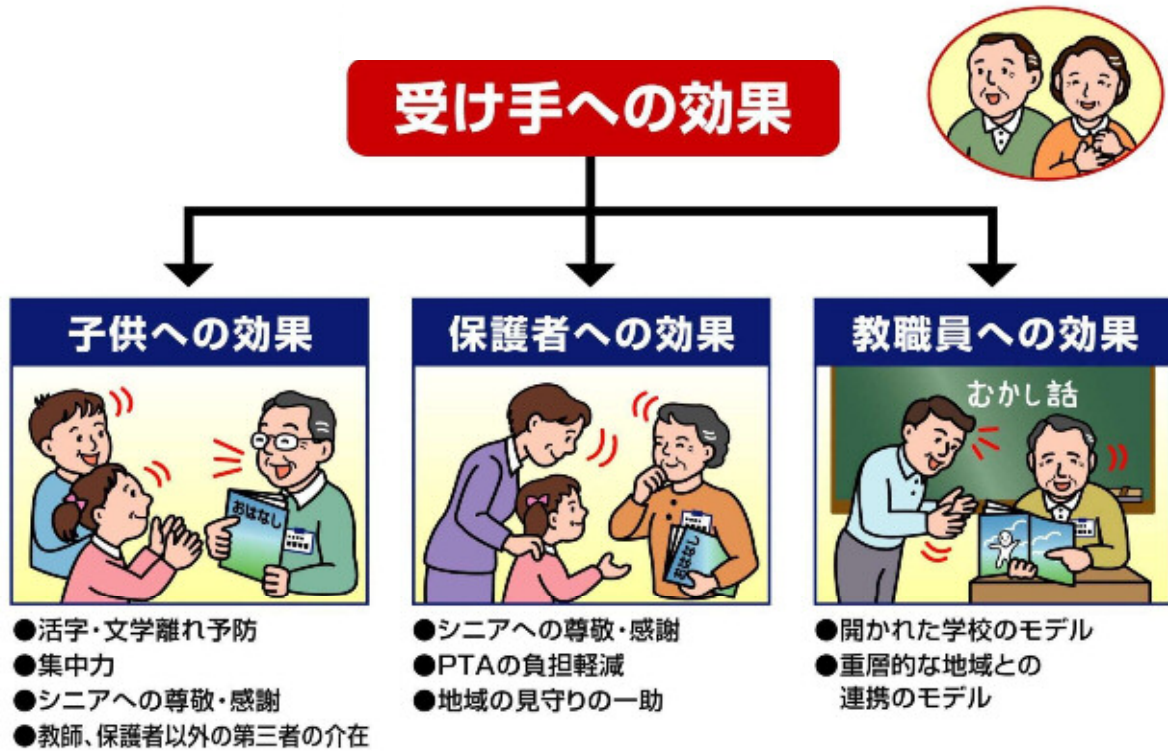
知的能動性維持・向上者(%)



知らず知らず一日1万歩!

Sakurai et al. (2015) *Arch Gerontol Geriatr*

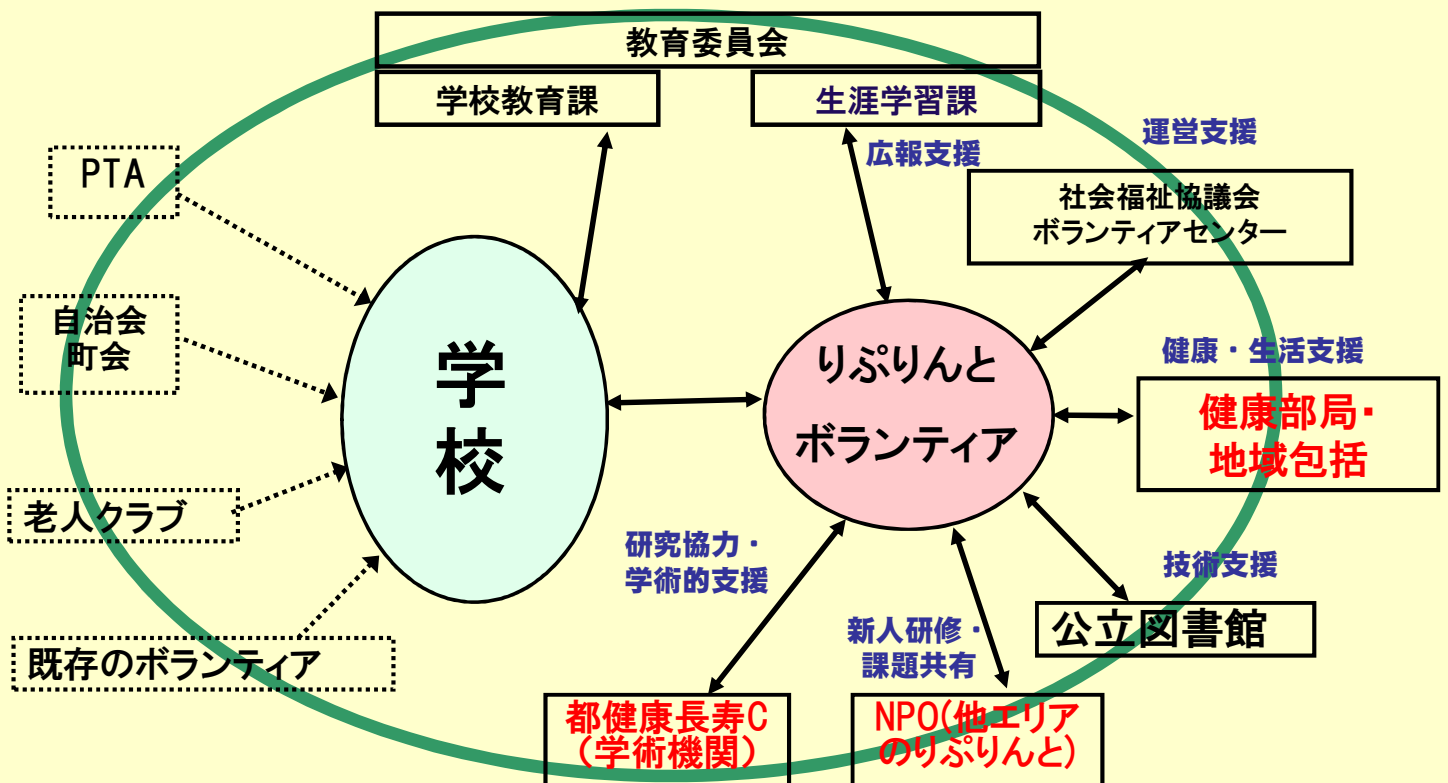
りぷりんと活動の多面的効果



藤原他2007;村山他2012;竹内他2013 藤原他2010; Yasunaga, et al 2016, Murayama et al. 2018

17

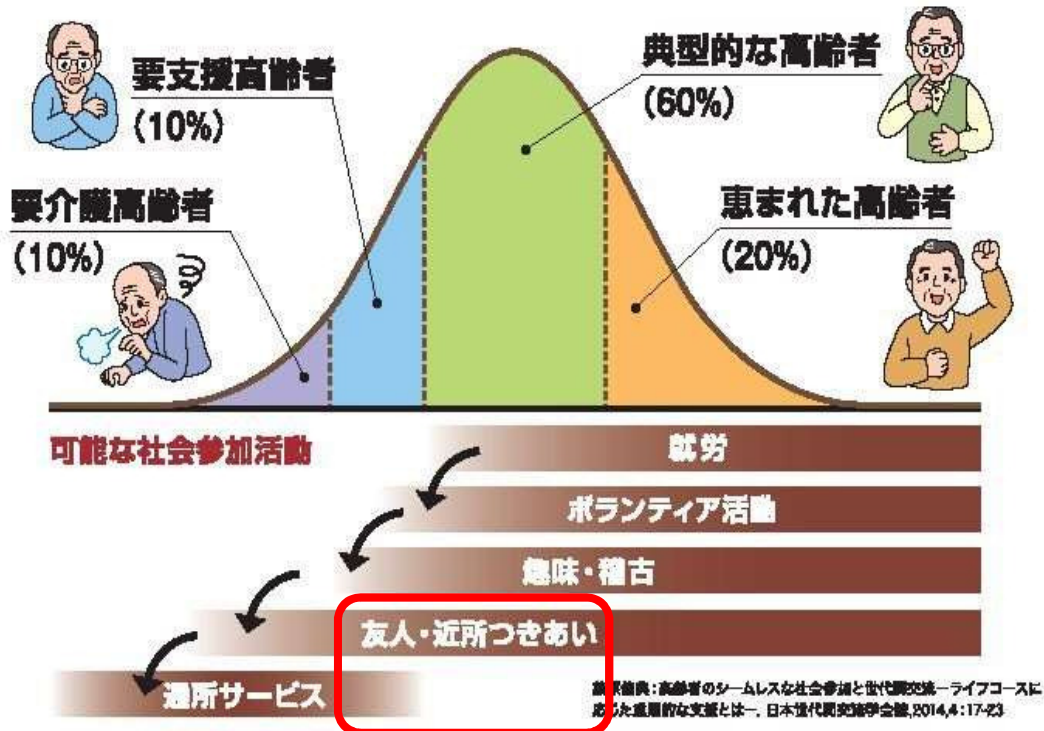
「りぷりんと」を取り巻く、ローカルネットワーク



公衆衛生情報2007;37:12-15より改編.

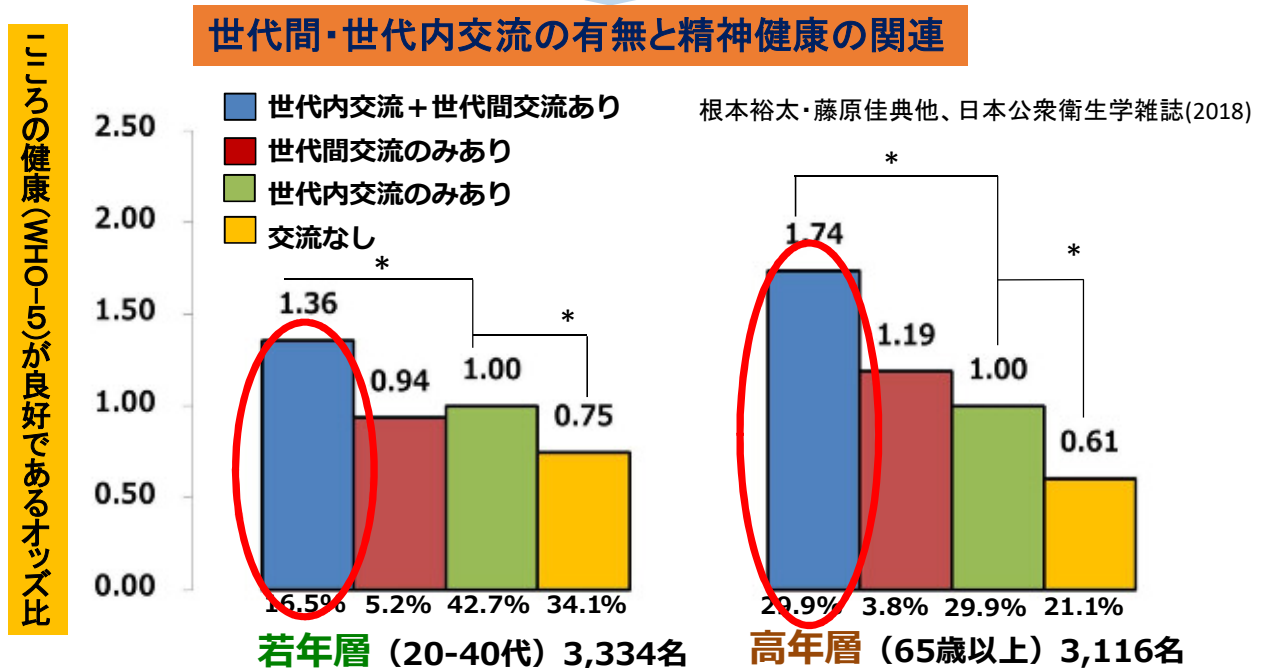
18

高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み



19

一般住民においても、世代間交流は健康に良い！



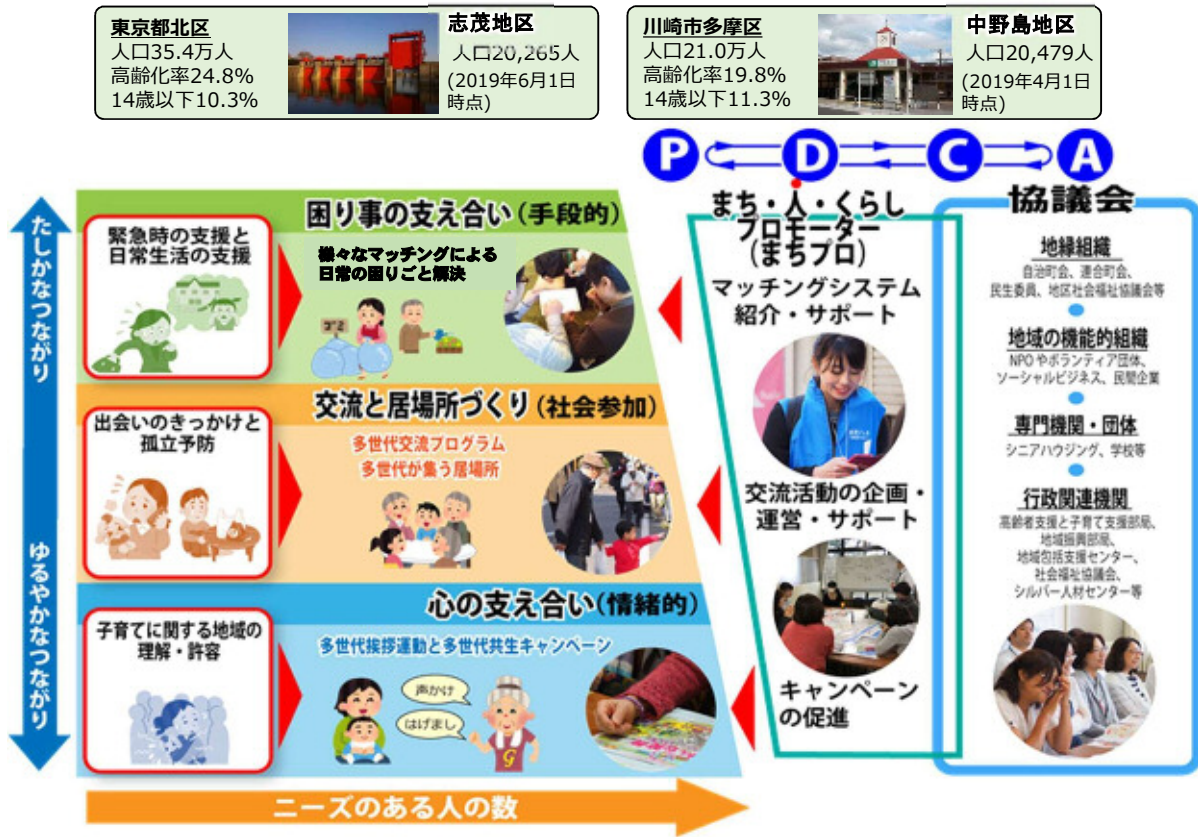
※1 性、年齢、教育年数、婚姻状況、居住地域、婚姻状態、子/親/祖父母との同居、主観的経済状態、地域活動への参加、就労、健康度自己評価、生活機能(高齢者のみ調整)、既往歴(脳卒中、心臓病)を考慮した解析 ※2 家族や仕事関係の人以外で会話をする機会を問い、「よくある、ときどきある」と回答したものを「交流あり」とした。

世代を問わず、世代内交流をしている者は、交流をしていない者より精神的に健康であり、世代間交流もしている者はさらに健康度が高い。

20

多世代型介護予防・日常生活支援総合事業プロジェクトの全体イメージ

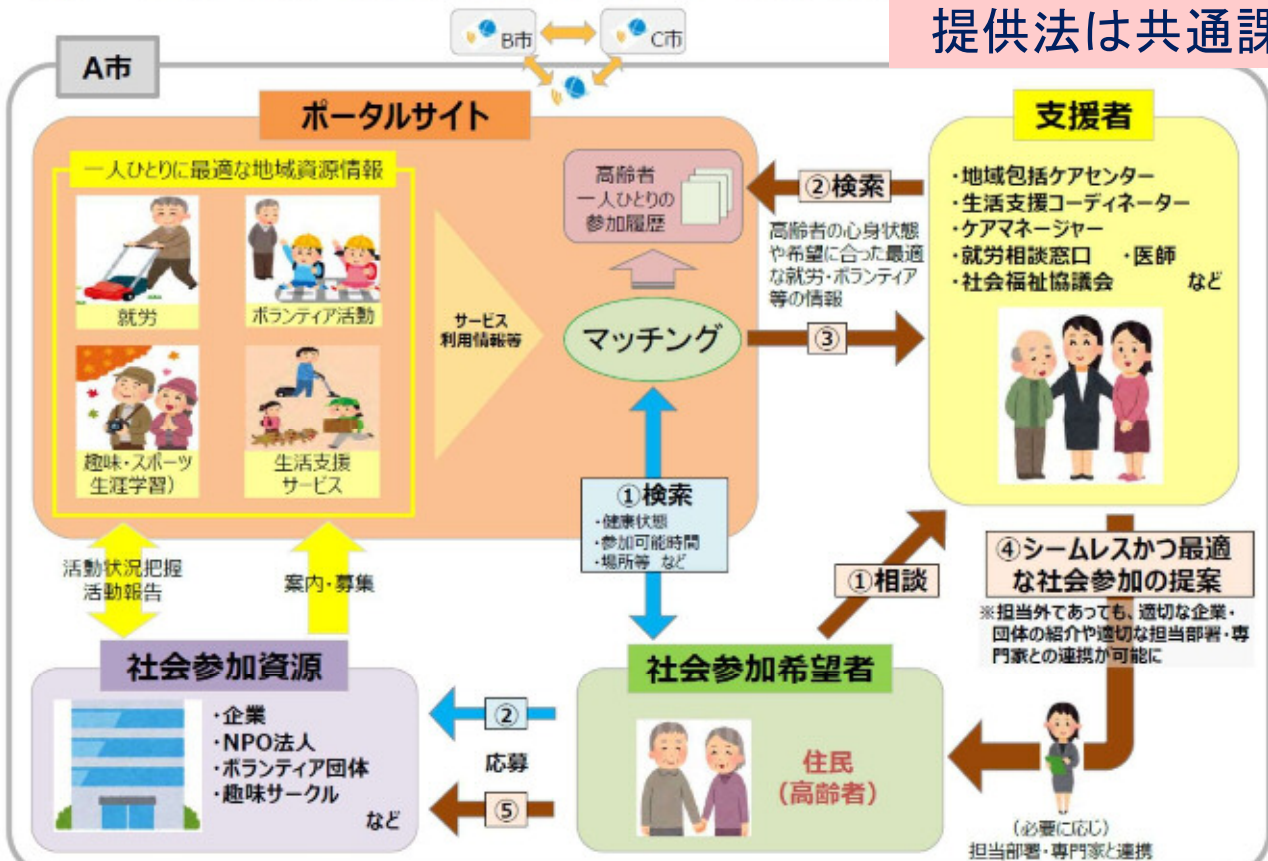
JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」(H27-30) 助成



21

(イメージ図)「誰でも社会参加コーディネーターシステム」

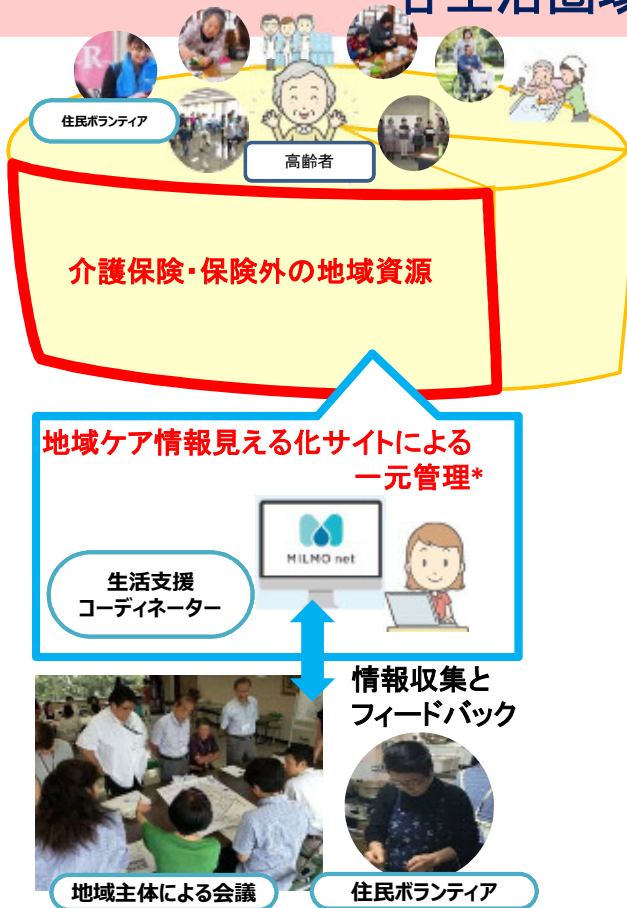
社会参加情報の提供法は共通課題



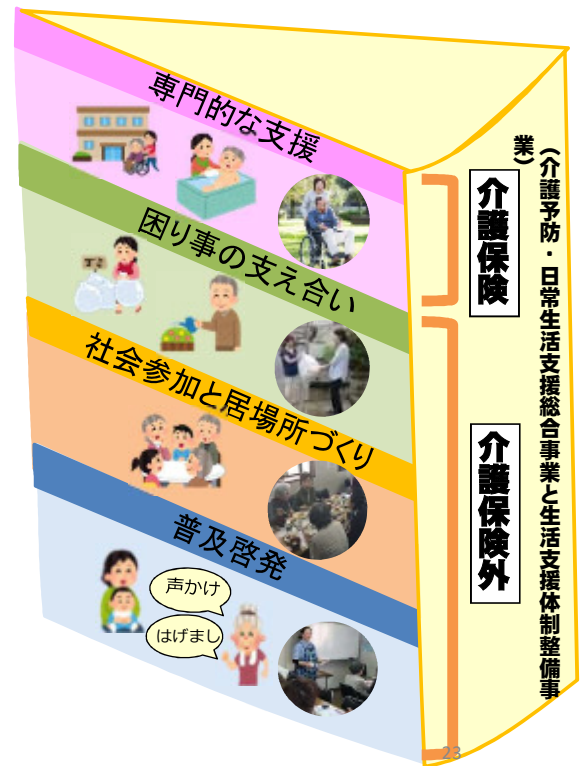
(出典) 未来投資会議 第3回構造改革推進部会「健康・医療・介護」会合(平成29年12月)資料2(東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典研究部長 提出資料)を参考に経産省作成

22

各生活圏域での地域包括ケアの全体像



*当チーム、大田区、(株)ウエルモとの協働事業
http://www2.tmig.or.jp/spch/project_gaiyou_mirumo.html



23

地域ケア資源情報見える化サイト「ミルモネット」の実績

■ **介護保険内資源登録数 711件**

2019/7/18現在

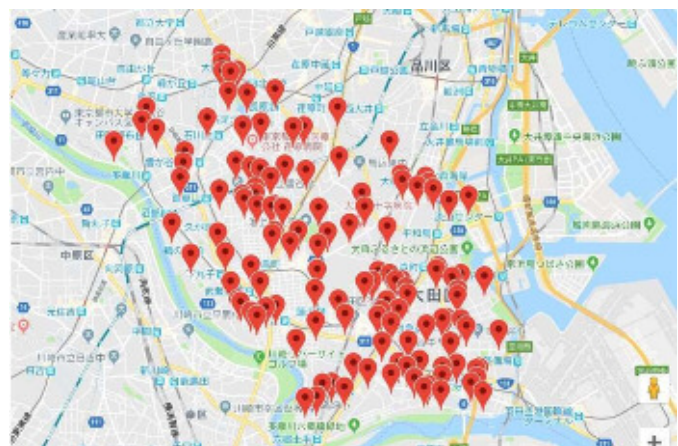
■ **介護保険外資源登録数 333件**

地域包括支援センターが2018年9月より地域資源を把握し、

1) 包括が代行入力、2) 地域資源が自主的の入力を行った。

-活動通いの場 232件

- 介護タクシー・移送 21件
- 生活支援（自費ヘルプ） 12件
- 配食サービス 12件
- 訪問理美容 4件
- 遺品・生前整理 5件
- 見守り・緊急通報 2件
- その他 45件



24